

『感謝と志』

尊敬する中国薬膳研究会会長殿
北京中医薬大学校長殿
各会の代表の先生殿

合格者代表 中医薬膳師コース第11期卒業生 石川 宏子



本日は、このように盛大な日中両国薬膳学術シンポジウムにおきまして国際薬膳師の授与式を開催していただき、ありがとうございました。心から御礼申し上げます。そして合格者一同気持ちの引き締まる想いです。私達、新米の国際薬膳師は知識こそまだまだ未熟ですが、やる気・志・希望は一杯です。

実は、私が中医薬膳を勉強しようと思ったきっかけは、家族の体調不良でした。医者にかかっても、薬を飲んでも良くなり、医者通いが続きました。自分達の健康を、2週間に1度、ほんの数分診ていただける医者に丸投げするのはいかなものかと、いつも心にひっかかっておりました。

そんな時に知ったのが本草薬膳学院の中医薬膳でした。本草薬膳学院で学んだことは、目からうろこが落ちることばかりで、これが本当の薬膳なのだと思います。

私の祖母は数年前に100歳で亡くなりましたが、祖母が手入れしていた小さな庭には麦門冬・虎耳草・玉竹・紫蘇・茗荷・桃・柿・枇杷・無花果・梅・柚子・山梔子・連翹・山椒などが植えてあります。恥ずかしながら、今更になってその効能や使い方がわかりました。祖母が何気なく料理やお茶に使っていたこれらの庭の草木が今は宝物にみえます。祖母も効能や使い方が本当にわかっていたので母や私に教えることができなかつたのだと思います。今は、中医薬膳を勉強して私が知ることが出来たので、今度は私が家族のために使っていきたいと思っています。

最近の日本の子供達の中には、鶏は4本足で、牛乳は工場で科学的に作られ、魚は切り身で泳いでいるなどと思っている子供もいるのです。これからの日本人には、中医薬膳のような食に関する知識が必要です。日本人が長寿国と呼ばれているのは、私の祖母のような薬食同源を肌で知っていたお年寄りが多かったからだだと思います。

最後に、国際薬膳師に合格させていただいたことに感謝し、並びに日本の中医薬膳の普及に少しでも力になれるよう、本草薬膳学院の劉先生はじめ素敵な先生の下でこれからも精進していく所存です。

ご清聴ありがとうございました。



『国際薬膳師試験合格に寄せて』

通信教育コース

渡辺 真里子

このたびは、国際薬膳師合格のお知らせをいただき、ありがとうございます。試験が終了した直後は、思うように問題が解けなかつた悔しい思いと、なんとか最後までやりきれたという充実感が交錯していました。改めて合格のお知らせをいただき、今はホッとした安堵感に加えて、がんばってよかつたなあという気持ちがいよいよわいてきております。

私が薬膳を学び始めるきっかけとなったのは、今から4年ほど前、当時の仕事が忙しかったことが原因で体調を崩したことでした。少しづつ不快な症状が重なり、病院でいろんな検査を受けても原因がわからなかつたのが、ある日漢方薬局で相談したことをきっかけに教えていただいた漢方の理論と自分の体の状態がピタッとはまったのです。その衝撃はとても強く、その後自分でもなんとか使えるようにと思ひ漢方を学ぶ中、日常生活では薬だけでなく食事で養生することの大切さを感じ、薬膳にも目を向けるようになったのでした。

本草薬膳学院には今から1年半前、通信教育コースに入學させていただきました。中医学の理論や中医学独特の四文字熟語(?)のような証の表し方などにはさほど抵抗なかつたのですが、当時「わかつた」と思っていたことは実は「知っている」程度に過ぎなかつたようです。提出プリントの問題には毎回悩まされ、教科書や辞典と首つ引きで回答することがほとんどでした。また後半のメニュー作成や弁証施膳の課題では、肝心なことを見落として原則に則つたメニューを作ることができず、再提出のお知らせをいただくこともたびたびで、「自分には才能がないのかも」と落ち込むこともありました。そんな中でもスクーリングでは劉先生の明快で楽しい授業のおかげで改めて中医学のおもしろさに魅了されましたし、平尾先生のおかげで、なんとか試験を受けるまでの自信を持つことができました。今思い返してみれば、赤ペンで指摘いただいたことのほうが記憶に強く残っているようです。先生方、本当にどうもありがとうございました。

今回の国際薬膳師合格は「薬膳」という道具の「使い手」としてようやくスタートラインに立てたという証なのだと思います。

これからもさらに自分なりに自由に使いこなせるよう、学びを深めていきたいと思ひます。6月からは研究科でお世話になります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

